

最後に聴きたい歌、ありますか？

シンガーソングライターの弓削田健介さんの歌を最初に聴いたのは、『あなたにありがとう』という歌だった。衝撃を受けた。30年ほど前、「オフコース」の小田和正さんの歌声を聴いた、あのとき以来の感動だったような気がする。

「今のこの時代に、こんな優しい歌を作る人がいるんだ」と思った。

弓削田さんは末期ガンの患者さんが闘病生活を送るホスピスで定期的にボランティアをしている。患者さんに「あなたの思い出の曲は何ですか？」と聞いて、患者さんの好きなその曲を、ピアノ弾き語りで歌ってあげるのだ。きっかけは大学3年生のとき。ホスピスで開催された小さな演奏会に訪れる機会があった。「弓削田さんも何か一曲！」と頼まれ、患者さんからのリクエスト曲を歌った。リクエストした人がその歌を聴いて涙を流していた。

弓削田さんは、音楽にはとてつもない力があると実感した。小学校の教師を目指していたが、その日から、弓削田さんの乗った「船」は進路を変え始めた。

そう言えば、あの小田和正さんもそうだった。東北大学で建築工学を専攻していた。成績も優秀だったそうで、卒業後は建築家としての道が約束されていた。しかし、小田さんにはもう一つ、好きで好きでたまらないことがあった。高校時代からやっていた音楽。でも、所詮趣味に毛が生えたようなもの。それを職業にするなんて考えてもいなかった。でも、好きという感情は抑えられない。

「ヤマハ」が主催するコンテストに出場した。ここで優勝してアマチュア音楽活動にけじめをつけ、本来進むべき建築家の道を歩もうと思った。ところが、結果は2位。「このままでは終われない」と、プロの音楽家へ突き進むことになる。

歩むべき道から外れることを「OFF・COURSE」という。それでグループ名を「オフコース」としたのは定かではないが、実際、進むべき建築家としての道からオフコースして、小田さんは好きで好きで仕方がない道を選んだ。

「できること」や「得意なこと」より、「好きなこと」を選ぶのはカッコイイ。でも、世の中そんなに甘くはない。小田和正さん率いる「オフコース」はヒット曲にめぐまれるまで10年の下積みがあった。

大学院卒業後、弓削田さんもまた教師への道から外れて、大好きな音楽の道を歩み始めた。ある日、ホスピスコンサートに行くと、そこにかつてジャズボーカリストとして活躍していた男性がいた。よく知っている人だった。「まさかこんなところで再会するなんて・・・」、弓削田さん、ショックを受けた。男性は弓削田さんに、「人生って何だと思う？」と聞いた。まだ若い弓削田さん「さあ僕にはまだ分かりません」

彼はこう言った。「人生って、夏休みみたいなもんだったよ」「どういうことですか？」「夏休みみたいにあっという間に過ぎたよ。宿題とか嫌なこともあったけど、夏休みの最後の日には楽しい思い出がたくさんできた。今俺はお金も名誉も何にも要らなくなった。今の俺を助けてくれるのは友だちとの思い出だけ。弓削ちゃん、友だちとの思い出を大事に生きていけよ」

「日本の歌は格好悪い」と言って、いつも英語のジャズばかり歌っていた彼が、弓削田さんにリクエストした曲は『翼をください』だった。「今、富とか名誉ならば要らないけど、翼が欲しい」と弓削田さんは歌った。

人生の最後に聴きたい歌、あなたは何をリクエストしますか？

「人生って夏休みみたいなもんだったよ」という言葉が胸に染み入ります。夏休みも人生も始まりがあり終わりがあり、いろんな思い出、経験、出会い、挑戦、楽しさ、辛さ、苦しさいろいろあると思いますが～一番大切な事は、最後の日に「楽しかったなあ～」「面白かったなあ～」と思えるかどうかなのかもしれない！！

夏休みも人生にも決して無駄～無意味な日は一日もないとは思いますが、少しでも一日一日を充実させつつ過ごさなくてはとしみじみ思います！

P.S.

まさに今月より子供さん達にとっては待ちに待った「夏休み」が始まりますが～思い出多い素晴らしい夏休みを過ごされますことを心より願っています。

余談ですが～最近、百田尚樹の本にはまっているのですが・・・その中でも「永遠の0(ゼロ)」という本は最高でした！！

夏休みの一冊を考えておられる方には是非是非読んでほしい一冊です！

(読まれた方は、どうぞどうぞ店頭で私と語り合いましょう！)

